

学校外団体の部

旭山自然調査隊

私たちの守るもの2025

私たちは旭山の森で、在来種のすみかを守り、旭山のシンボルであるオオムラサキなどの希少種を守るため2つのテーマを掲げ活動しています。

1 在来の樹林を守り、多くの生き物のすみかを作る！

生き物のエサとなる木を植え育てる。
かなちよる旅館など生き物のすみかを作る。
冬越しを助けるエコスタック(落ち葉をためる枠)を作る。

2 水辺の小さな命を守る！

エゾアカカエルやエゾサンショウウオなどが卵を生むふしぎ池の水質を改善するため池底の泥を取り除き酸素不足を解消する。池に泥が入ってこないように設置した土留め(ヤシの木ロール)の保守点検など。

旭山の森に住む生き物や旭山の魅力を発信し仲間を増やし活動の輪を広げています！



学校外団体の部

定山溪児童会館

定山溪こどもかわまちづくりプロジェクト

私たちが暮らす定山溪は豊かな自然に囲まれています！昨年、定山溪が「かわまちづくり計画」に登録され、私たちにできる「かわまちづくり」ってなんだろう?と考えました。まずは自分たちが川での活動を全力で楽しみ、そこで出会った生き物や経験したことを形にして発信することが、より多くの人たちに「自然の魅力を伝える=まちづくり」になるのではと考えました！

1. 「ただの川」から「生き物が暮らす川」へ。

豊平川の川淵をガサガサ...するとガガンボの幼虫やカワニナ、ウグイの稚魚が見つかりました。さらに調査を続けると、4cm程の大きなオニヤンマのヤゴが見つかりました!川にはたくさんの生き物が暮らしていることを実感した瞬間でした。

2. 「手作りの竿で命を学ぶ」魚釣り&調理に挑戦!

笹やイタドリで竿を作り、魚を釣って、釣った魚をその場で捌いて調理し、食べる。まさに「生き物の命をいただく」ことを子どもの小さな心と体で必死で受け止めました。「釣れた!楽しい!食べてみたい!でもかわいそう...」だけどもありがとう。」と葛藤しながら覚悟を決め、ウグイの頭にハサミを入れました。4匹のウグイをみんなで分け合いおいしくいただきました。

3. 「初めて虫に触った!」好きが生まれた昆虫観察

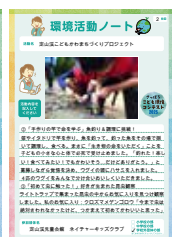
ライトトラップで集まった昆虫の中からお気に入りを見つけ観察しました。私のお気に入り:クロズマメゲンゴロウ「今まで虫は絶対さわれなかったけど、つかまえて初めてかわいいと思った」

4. 「ゴミから生き物を守りたい!」温泉街で街頭啓発

八口ウィーンでは子どもたちの発案で、街を歩きながらごみ拾いをし、最後は道行く人々に向けて街頭啓発を行いました。道端に捨てたごみは風に飛ばされ最後は海に流れていってしまいます。たくさんの生き物が暮らす定山溪をごみから守るために「ポイ捨てしない!ごみはごみ箱へ!」と声を上げました。

5. 「持って出かけたくなる!絵本冊子」制作

活動の中で実際に発見したものや生き物との関りの中で得た学びを物語にし、イラストや文章で冊子にまとめた絵本作りに挑戦!定山溪を訪れる人々に手に取ってもらい、自然への関心を高めるきっかけとなることを目指します。



学校外団体の部

さっぽろあそエコ団

さっぽろ圏の自然を守るために わたしたちにできること

私たちは、さっぽろ圏の川、海、森をフィールドに、「たくさんあそびながらエコについて考える」をテーマとして、小学1年生から5年生のメンバーで活動しています。これまで、三樽別川、銭函の海岸、屯田防風林などで自然体験を行い、自然を守るためにできることを考えてきました。

三樽別川では川の生き物を観察し、きれいな川を守ることが生き物のすみかを守ることに繋がると学びました。銭函の海岸ではビーチコーミングを行い、漂着物の調査やごみ拾いをしました。屯田防風林では、防風林の役割を学びながら散策し、さまざまな植物や生き物を観察しました。このほか、冬の森での活動も予定しています。

これまでの活動をとおして、「生き物を大切にしたい」「ごみを捨てない」といった気持ちが育ち、自然を守っていききたいという思いにつながりました。



学校外団体の部

五天山自然観察クラブ

人が壊した自然を取り戻すには ~自然林再生活動から学ぶこと~

私たちは西区五天山公園を中心に自然林再生活動をしています。元々この場所は採石場跡地に造成された総合公園で、草も木も生き物も山自体がけずられて無くなった場所でした。札幌市で緑を復活させるのに人工的に土を入れ植林などをしましたが、公園上部の自然再エリアは傾斜があったり、雨で土が流れたりして樹木がなかなか定着しませんでした。

そのような過酷な場所へ元々あった生物多様性のある森に近づける様な再生活動を続けています。外来種樹木に侵略されたり、動物の食害など、様々な困難を経験しながら自然林再生への道のりを学んでいます。



中学校の部

札幌市立義務教育学校定山溪学園

「夢の森」づくり~夢の森づくりは未来へのプレゼント

はじめに

本校では、石狩地域森林ふれあい推進センターの方々の御指導のもと、安全面に配慮を重ねた上で、郷土の森(夢の森)について学び、保全し、伝える教育活動を推進しています。

「来てくれた?来てくれるかな?」では、事前学習で作った野鳥の巣箱を設置しました。脚立や紐を使って安全に取り付け、森の生き物との共生を意識する活動となりました。「来年も鳥が来てくれるといいな」と期待を込め、自然への思いやりが感じられる作業となりました。

「樹名板の設置」では、作成した板を森の木々に設置し、多様な樹木の存在を実感しました。「こんなに木の種類があるんだ」と驚く声も上がり、樹木への関心が深まりました。

「森をつくろう」では、エゾシカ食害防止資材(保護管)を作成して天然苗木を保護しました。ハンマーでの打ち込みや固定作業を通し、森を守るために人の手が必要であることを実感し、仲間と協力する姿勢も見られました。

「大きくなあれ」では、種から育てた苗木(クリ3本、トチノキ1本、ミズナラ1本)を植栽して保護管を設置しました。植えた木と背比べをして記録し、「また来年、どれくらい伸びるかな」と未来の森づくりに思いを馳せました。

「夢の森に芽生えた新しい命」では、イタヤカエデを掘りとり移植しました。命をつなぐ活動を通し、「自分が植えた木が大きくなってほしい」と、生き物を育てる責任や森への愛着が芽生えていました。

「堆肥づくり」では、枯草や枝で堆肥とムシのすみかを作り、自然の循環を学びました。「森のゴミも森を育てるんだね」と、分解の仕組みを言葉にしていました。

「夢の森に小道をつくろう」では、ウッドチップをまいて遊歩道を整備しました。安全な環境づくりを考え協力して運び、完成後の道を歩く達成感を味わいました。

おわりに

先輩たちが守ってきた「夢の森」の歴史を感じながら活動しました。今年植栽した木々が、未来の定山溪学園の児童たちが活動する頃に大きくなると聞き、森づくりが未来へつながっているということに大きな喜びを感じる事ができました。



中学校の部

札幌市立西野中学校 特別支援学級

~グリーンカーテンが教えてくれた「継続」の難しさと涼しさ~

夏の暑さは毎年厳しくなっていることから「気候変動(SDGs 13)」を肌で感じるようになりました。私たちの学校には、常設でエアコンは設置されていません。しかし、エアコンを使えば涼しくはなりますが、エネルギーを使いすぎてしまうという矛盾も感じていました。

そこで私たちは、「自然の力を借りて、快適な教室を作れないか?」と考え植物が育つ過程で直射日光を遮り、室温を下げる効果があると言われていて、「グリーンカーテン」の設置に取り組むことにしました。また、単に涼しくするだけでなく、育てた実を収穫することで「つくる責任 つかう責任(SDGs12)」についても学べると考え、ゴーヤときゅうりを育てる計画を立てました。

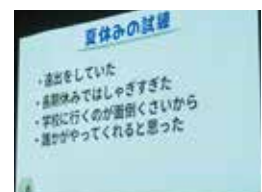
苗を植え、ネットを張り、毎日水やりを続けました。しかし、活動は順調なことばかりではありません。特に難しかったのは「誘引(ツルをネットに巻き付ける作業)」です。きゅうりやゴーヤ、ヘチマの成長スピードは想像以上で、土日が過ぎて月曜日になると、ツルがネットに絡まずにどんどん上へ伸びてしまっていました。窓全体にきれいに張り巡らせるには、こまめな手入れが必要だと知りました。

また、夏休みに入ると、それまで毎日学校に来て行っていた「水やりの習慣」が途切れてしまうという課題にも直面しました。植物は待ってくれません。この経験から、私たちは植物を育てることの難しさと、継続することの大切さを肌で感じました。

温度計と二酸化炭素濃度計を設置し、「カーテンあり」と「なし」の教室で比較実験を行いました。

移動式エアコンを使わないと暑い日もありエアコンを使っている日もあったので、全て正確なデータではありませんが、グリーンカーテンがある教室では、ない教室に比べて室温やCO2濃度が下がっていることが確認できました。また、朝エアコンが付いていない状態の教室に登校した時も、植物を植えている教室の方が、涼しく感じました。

今回の活動を通じて、私たちはエネルギーに頼りすぎず、自然と共生する工夫の大切さを実感しながらも、植物を育てる責任の重さを学びました。



中学校の部

札幌市立米里中学校 科学部

望月寒川の生物調査13年目

私たちは今まで、望月寒川の生物調査や水温・水質調査などを13年間続けてきました。その活動の中では生息する生物を調査するため、仕掛け網を設置したり、仕掛け網では捕まえない生物を水網で捕獲したりしています。また水温・水質の調査を続けることで、長期的な目線での環境の変化を知ることができています。

生物調査は学校の近くだけではなく、上流や下流の部分まで幅広く調査することによってエビやウキゴリをはじめ、ウグイやナマズの生息を確認できました。特に今年度は絶滅危惧種のエゾホトケドジョウの生息を確認できています。私たちの発表をぜひ見てほしいと思います。



特別発表

一般社団法人SWITCH





環境クイズと ジャグリングパフォーマンス

パフォーマー: ジャグラー・コーヘイ



環境活動 紹介コーナー 〈3Fホワイエ〉

コンテストに応募した「環境活動ノート」や
札幌市で行っている、環境を守るための
取組を紹介しました。



各発表団体の結果

発表団体の中から、各部門ごとに最優秀賞と優秀賞が贈られました。
また、発表団体の環境活動を応援する「エコチル特別賞」「クリック募金特別賞」も贈られました。
最後に、各審査員から今回の発表の総評をいただきました。

小学校の部

最優秀賞
優秀賞
エコチル特別賞
エコチル特別賞

札幌市立北光小学校
田中学園立命館慶祥小学校
札幌市立駒岡小学校
札幌市立小野幌小学校 環境委員会

学校外団体の部

最優秀賞
優秀賞
クリック募金特別賞
クリック募金特別賞

定山溪児童会館
五天山自然観察クラブ
旭山自然調査隊
さっぽろあそエコ団

中学校の部

最優秀賞
優秀賞
エコチル特別賞

札幌市立米里中学校 科学部
札幌市立義務教育学校定山溪学園
札幌市立西野中学校 特別支援学級



札幌市立北光小学校



田中学園立命館慶祥小学校



札幌市立駒岡小学校



札幌市立小野幌小学校
環境委員会



定山溪児童会館



五天山自然観察クラブ



旭山自然調査隊



さっぽろあそエコ団



札幌市立米里中学校
科学部



札幌市立義務教育学校
定山溪学園



札幌市立西野中学校
特別支援学級

